



令和三年度を振り返って



山口県小学校長会 副会長 植田 良子

発行所
山口県小学校長会
代表者 兼重彰洋
校長会事務局
山口市大手町2-18
☎ 083-925-2919
FAX 083-925-6776
印刷所
大村印刷株式会社

一 はじめに

今年度も、新型コロナウイルス感染症に関する予測困難な状況が依然として続いている。そのような中、山口県小学校長会は、兼重彰洋会長の下、十五支部二百七十七名でスタートした。感染症対策を講じつつ、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」といった三つの力をバランスよく育む教育の実現を目指してきた。子どもの学びを止めないよう、一人一台端末の家庭への持ち帰りを進め、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現にもつなげている。導入された一人一台端末を活用した学習への可能性は無限大であり、教職員による活用の格差を広げないための研修を行うとともに、働き方改革等も同時に進めていかなければならない。そのような中、今年度も五つの重点を設定し、コロナ禍での研修形態も考慮しながら活動に取り組んできた。

二 研究大会の実施

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、五月七日の総会並びに春季教育研究大会は、書面での開催となった。県下校長が一堂に会することは今年度も叶わなかったが、山口県小学校長会の活動方針に基づき、一年間の研究の方向性を確認することができた。全国連合小学校長会研究協議会石川大会や、中国地区小学校長会教育研究大会広島大会については、全国的な感染拡大の時期と重なったため、やむを得ず誌上開催となった。

十月二十九日の秋季教育研究大会では、下関支部の運営により、ズームで各支部をつないだオンライン研修での開催が実現した。画面を通じた各支部の報告や発表により、対面に近い方法での開催となった。コロナ禍での新しい生活様式を踏まえた大会運営方法の選択肢が一つ増え、有意義な大会となった。

三 研修の充実

今年度の研修については、対面での集合研修とオンライン研修を、研修内容に応じて決定するハイブリッド型研修を行ってきた。つまり、年間数回行われる研修形態を、回ごとに選択するのである。新型コロナウイルス感染症拡大前は、対面での集合研修が当たり前だったが、コロナ禍により、オンライン研修のノウハウが素早く周知され、開催に至ったのである。このことは、コロナ禍で得た産物であると言える。コロナ収束後には、対面での集合研修に全て戻すのではなく、研修の目的に立ち返り、内容に応じてオンライン研修を含むハイブリッド型研修を取り入れていくことが望まれる。

四 おわりに

令和二年度から本格実施となった学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、「カリキュラム・マネジメント」の適切な実施、「学校・地域連携カリキュラム」を基にしたやまぐち型地域連携教育の一層の推進、一人一台端末の効果的な活用、教職員の人材育成、働き方改革等、校長のリーダーシップを発揮した学校運営は、多岐にわたっている。また、校長は子どもたちと学校の未来を見据えた計画と実行力をもって、学校づくりを進めていかなければならない。だからこそ支部を超えた校長同士や教育委員会との連携をより密にし、様々な協議や情報交換を通して対応していきたいものである。

全連小報告

誌上发表大会

周南市立戸田小学校長

宮崎 純一



「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を大会主題に、十月十四日(木)～十五日(金)に石川県金沢市にて開催予定であった「第七十三回全国連合小学校長会研究協議会石川大会」が、昨年の京都大会と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、誌上发表大会となった。

主管県である石川県小学校長会では、本大会の参集での開催の実現に向けて、通常の準備に加えて感染防止対策をはじめ様々な工夫や準備にご努力いただいたというところで、そのご尽力に感謝を申し上げます。残念ながら一堂に会しての開催は叶わなかったが、誌上发表という形であっても、予定されていた分科会の内容は大変充実しており、今後の学校経営及び運営の参考にさせていきたい。コロナ禍にあっても、校長として研究を継続することの重要性を改めて実感することができた。

昨年の京都大会、そして今回の石川大会の誌上発表の成果が来年度の島根大会に引き継がれ、無事開催されることを心から願っている。

退職なさる校長先生方からのメッセージ



岩国市立河内小学校 初任校 周東町立修成小学校 安吉 敏之 座右の銘 楽しきことは 人との関わり

出身は大阪であるが、山口大学に進学し、岩国市で長く勤務し、宇部市、柳井市でもお世話になった。今思うと、多くの方に支えられて教職を全うできたと思う。子どもたち・先生方・保護者・地域の方々、私に関わってくださったすべての方に感謝したい。一人学びはもろん大切だが、



岩国市立通津小学校 初任校 岩国市立川下中学校 濱崎 幸貴 座右の銘 「誠」

教員人生をマラソンに例えると：ふらふらになりながらも、周りの人に抱きかかえられ、なんとか完走だけできた、そんな感じであろうか。そんな自分でも、いつもあたたかく支えてくださった皆さんの先輩、同僚、子どもたち、そして家族には感謝しかない。教師という職業は、つらい



岩国市立灘小学校 初任校 山口市立大内小学校 黒杭 譲 座右の銘 生涯錬磨

始まりは臨探。極小や中大規模の小学校に。次から次への異動だったので整理整頓が得意になった。初任は、市内一の大規模校。やっとのことで本採用。力量のある先輩が多く、教わることは多かった。二校目は、妻を伴って地元に戻ったが、慣れない土地に妻は涙の日々が続いたようだ。ごめ



岩国市立平田小学校 初任校 防府市立勝間小学校 福坂 通恭 座右の銘 明けない夜はない

楽しいこともたくさんあったが、苦しいこともあった三十八年間であった。学習指導はそこに、劇の創作と練習に邁進した初任者時代、考古学の知識ゼロで飛び込んだ埋蔵文化財センター、はじめて知った複式学級での指導、途中人事で異動後、半年で閉鎖となった教育事務所、学力向上が山口県の課



岩国市立美川小学校 初任校 山口県立田布施養護学校徳山分校 村重 忠 座右の銘 一期一会

周南市(当時の徳山市)の養護学校で初任を迎え、玖珂郡、岩国市、周防大島町の学校に勤務させていただき、良き同僚や上司、保護者や様々な地域の皆様方の御支援をいただくことにより職務を全うさせていただいた。感謝の限りである。その中で、社会教育に携わった玖珂郡美川町での三年間は、



柳井市立新庄小学校 初任校 田布施町立城南小学校 本田 哲也 座右の銘 出会いとつながりを大切に

初任の城南小学校で、スポ少のミニバスに関わる機会をいただいた。監督やコーチの方と話す中で、いろいろな方がそれぞれの立場で子どもたちの成長に関わっておられることに気付くとともに子どもたちを多面的に見ることが大切さを学ぶことができた。私自身、子どもたちへの見方や考え方を広げる



柳井市立余田小学校
初任校 岩国市立装港小学校
座右の銘 あした輝く

廣池 康子

合唱曲の作詞作曲や合唱指導を本格化したのは麻郷小時代。民話やハゼの裏ろうそくがテーマの合唱組曲二十数曲を依頼されたのを皮切りに、浅江小では児童作の歌詞に曲を付けて震災後の東北に贈り、創立百四十周年記念には「光れ輝け浅江っ子」にじがはまのひと」を、ニジガハマギク讃歌「明日へ



柳井市立小田小学校
初任校 徳山市立遠石小学校
座右の銘 牛追いのコツ

岡崎 清美

幼い頃、私の家には一頭の牛がいた。体は大きいがおとなしくて優しい牛だった。ところが、この牛、困ったことに、屋外から牛舎に入れる時、私がいくら引つ張つても、尻を叩いてもびくとも動かない。でも、私の父が牛の後ろで両手を広げると、コイツは自分からスタスタと歩き始めるのだ。



周防大島町立浮島小学校
初任校 周南市立和田小学校
座右の銘 至誠通天

手嶋 宏明

三十代後半で生徒指導主任になってからはピンチの連続であった。汗をかき知恵を絞った。誠意をもって人や事に当たることによって何とか試練を乗り越えることができた。しかし、今振り返って見ると、もっとよい手立てがあったのではと反省点も多い。教職最後となった周防大島町での学



上関町立上関小学校
初任校 本郷村立本郷小学校
座右の銘 行動力とスピード感

伊藤 雅章

いつの間にか、この時が来た。安堵しているが、何か寂しいようでもある。三十六年間、人とのすばらしい出会いが、自分の仕事への毎日の活力となり、楽しく充実した教員人生を送ることができた。出会った全ての方にとっても感謝している。そして、時々教え子が訪ねてくれる。時には、勤務校の保護者



田布施町立麻郷小学校
初任校 徳山市立桜木小学校
座右の銘 自分を育てるのは自分

瀨本 満登

昭和五十九年度に新規採用されてから今日まで、六市町延べ九校でお世話になった。校長としては、和木小学校、東田布施小学校、そして現任の麻郷小学校の三校に勤めさせていただいた。この間、学校にはそれぞれ特有の歴史や伝統、校風や地域性があり、それらを踏まえた学校運営の大切さを強く感



田布施町立田布施西小学校
初任校 宇部市立岬小学校
座右の銘 実るほど 頭を垂れる 稲穂かな

淵上 ござえ

思えば、私の教員生活は初任の頃から苦難の連続であった。そして、中堅の頃には教員生活は高跳びのようだと感じていた。一つバーを越えると、一つ高くなる。それを越えようと、また一つ高くなる。一体このバーはどこまで高くなつて、私はいつまで跳び続けることができるのだろうかと思っ



田布施町立東田布施小学校
初任校 周東町立米川小学校
座右の銘 おかげさま

山崎 新一

いつも誰かに助けられ、誰かに支えられての三十七年間。児童、同僚、保護者、地域の方々、そして家族。「人」に恵まれた教員生活であった。まさに「おかげさま」の人生そのものだ。楽しかったこと、苦しかったこと、大喜びしたこと、悔しがったこと。今となつては、どの思いも自分を成長



周南市立遠石小学校
初任校 豊田町立豊田下小学校
座右の銘 目標にとらわれすぎず、人生を見失うな

河村浩一郎

教職を振り返ってみると、先生方の指導力や可能性を引き出すことができず、十分発揮できる環境を整えられなかったかと反省することばかり思い出される。先生方の人間的な価値を私自身が語り、先生方も協働して自分たちの潜在力を発揮することで、生き生きとした学校にできたのだろうか・・・。



光市立室積小学校
初任校 下関市立文洋中学校
座右の銘 離己利他

水品 英之

下関市の中学校国語科教員としてスタートし、下松、光、周防大島、周南、萩、岩国、下関の十校に勤務した。最後に地元の小学校校長となり、小中様々な児童・生徒・先生方に囲まれて幸せな教職員生活を過ごさせていた。中でも、山口県大島青年の家での社会教育主事としての三年間は、そ



周南市立湯野小学校
初任校 山口市立二島小学校
座右の銘 今日を変えれば、明日が変わる

藤室 恒一

教諭では、「楽しい学級」を子どもと一緒に創り上げることを目指した。諸先輩や同僚から指導や刺激を受けることで、学習指導や生徒指導に全力で取り組むことができた。管理職では、「信頼される学校」を教職員や保護者、地域の方々と一緒に創り上げることを目指した。コミュニティ



光市立立島田小学校
初任校 美祢市立大嶺小学校
座右の銘 良さを引き出す

奥屋 隆伸

学生時代、世に出たばかりのコンピュータに憑りつかれ、教員になってからも給与の多くを投じ、新機種が出るたびに購入し続けてかれこれ数十年。当然周囲に与える影響も大きく、同僚全員にノートPCを購入させたり、学校の文書を全てPCファイル化して戸惑わせたり・・・勝手なことばか



周南市立岐山小学校
初任校 山口県立周南養護学校
座右の銘 万象肯定 万象感謝

福井 雅子

若い頃は、何かうまくいかなかったり失敗したりすると、「なぜ?」「どうして?」と、思い悩むことが多かった。原因を探ったり後悔したりする中で、否定や責任転嫁をして、なかなか前に進めない自分がとても嫌だった。そんなときに出会ったのがこの言葉である。病気もケガも苦しいことも、



山口市立良城小学校
初任校 大島町立三浦小学校
坂本 哲彦
座右の銘 今日も生涯の一日なり

一言で言うなら、「楽しい教員生活」だったのだと思う。もちろん、失敗もうまくいかないことも少なくなかった。しかし、月並みだが、それらも大切な経験であり、よい思い出である。仲間の先生方はもとより、保護者、地域の方、子どもたちにも助けられ、何とか教員生活に区切りをつけられるトである。



山口市立平川小学校
初任校 徳山市立夜市小学校
中村 雅之
座右の銘 驕らず 逃げず 怠らず (恩師からのことば)

三十八年間、多くの方に支えていただいた。励ましや温かいことばかけ、時には厳しい指導と、どれも今の自分にとってかけがえのないものである。なかでも、行政勤務の時の教育長さんのご指導が心に残っている。「知らない方から挨拶をされる機会が多くなるが、その挨拶は立場に対しての挨拶



山口市立陶小学校
初任校 小野田市立赤崎小学校
本原 浩一
座右の銘 日々是好日

「沢山のやさしい手が添えられたのだ。一人で処理してきたと思っただけの一人の幾つかの結末点にも、今日までそれと気づかせぬほどのさりげなさで」(茨木のり子『知命』)
前任の赤崎小学校から今日まで、どれだけの人に支えられ、励まされ、迷惑をかけてきたことか・・・これまで迷いながらも日々前進、日々成長していけたらと思う。



山口市立興進小学校
初任校 下関市立安岡小学校
河津 裕志
座右の銘 感謝

大規模校での教職生活のスタート。幅広い年齢層の先生方のおかげで、公私ともに学びの多い毎日を経過することができた。その後、県内四地域で勤務。その間、学校現場を離れて、社会教育の事務や指導主事として過ごした五年間の事務局勤務は、振り返ってみると、大変貴重な経験であったと感じている。そして、三校、八年間の校長職。三校とも違う市での校長職は苦労も多かったが、保護者や地域、教職員、子どもたち、多くの方々を支えられ、充実した日々を過ごすことができたことに感謝の気持ちでいっぱいである。感染症対策に頭を悩ませたここ数年。一日も早い収束を切に願う。



山口市立佐山小学校
初任校 萩市立白水小学校
村崎 賢一
座右の銘 夢は逃げない 逃げるのはいつも自分だ

三十七年という教員生活は、私にとってかけがえのないとても楽しい時間だった。昭和六十年四月、初めて教壇に立った。当時の萩市立白水小学校四年生の子どもたちは今、どんな大人になっているだろう。スケッチ大会で行った玉江浦漁港や大照院、鍛錬遠足で訪れた吉田松陰生誕地、みんなで遊んだ



山口市立小郡小学校
初任校 新南陽市立富田西小学校
岡本 壽之
座右の銘 当たり前のことを馬鹿にせずちゃんとする

校長として勤務した三校では「当たり前のことを馬鹿にせずちゃんとする」をチャレンジ目標に掲げ、ABC教育を学校経営の柱に据えて取り組んできた。当たり前のことは、学習においては「基礎・基本」であり、生活においては「ルール」と考える。「当たり前」のことを疎かにせずし続けることは大切だ」と認識しながらも容易にできないのが人間の弱さだ。「A」当たり前のことを「B」馬鹿にせず「C」ちゃんとすることによつて、「D」(夢の実現・できる)に、ひいては「E」(笑顔)に必ずや繋がる」と信じている。怠け者の私自身に言い聞かせている言葉でもある。



山口市立さくら小学校 内富 徳哉
初任校 宇部市立西岐波小学校
座右の銘 笑顔が一番

三十八年間の教職生活がもうすぐ終わろうとしている。この間、多くの子どもや保護者、上司や同僚、地域の方々に支えられてきた。そして多くのことから学ばせていただいた。本当に感謝の気持ちでいっぱいである。

人と接するとき私が一番大切にできたことは笑顔である。いつも笑顔と

はいかなかったが、できるだけ笑顔で接することに心がけてきた。そうすることで人とのつながりが広がり深くなると信じているからである。
依然コロナ禍にあり、先が見えない不安な日々が続いている。そんな状況だからこそ、これからも多くの人に笑顔を届けたいと思っている。



防府市立向島小学校 國長 宏二
初任校 阿東町立生雲小学校
座右の銘 雲外蒼天

阿東町をふり出しに、山口市・徳地町・萩市・岩国市・長門市・防府市と七つの市町で勤務させていただいた。行く先々で多くの子どもたち、先生方、保護者、地域の方々との出会いがあり、今の私があると感じている。特に野外活動を通じての出会いに助けられた思いである。初任の学校で初めて宿泊学習を担当したことを今でも鮮明に覚えて

ている。宿泊学習の指導をするにあたって、羅漢での野外活動指導者講習会に参加したことが、私の教員生活の原点であるように思う。その後の多くの学校での体験活動の指導に生かしてきた。今後は今までの経験を生かして、体験活動・野外活動で自分にできることを手伝い、恩返しを少しでもしていきたい。



防府市立佐波小学校 原田 啓司
初任校 下関市立勝山小学校
座右の銘 自分にはできないというリミッターを外せ

下関市立勝山小をスタートに、小野小、玉祖小、中関小、河内小、由西小、佐波小と、大規模校から複式学級を有する小規模校と、大小様々な学校を経験させていただいた。

特に、初任地である下関での出会いと経験は、それ以降の自分の素地となっている。声楽・絵画に堪能な同僚や

たまたま宴会で知り合い、当時としては珍しいパソコン同好会に誘っていた他校の先生方、この先生方との出会いが、後にコンピュータ教育にのめり込むきっかけとなった。
「出会い」は偶然で面白い。その面白さが教職を続けてきた原動力であった。感謝、感謝である。



防府市立小野小学校 石本 和巳
初任校 菊川町立菊川中学校
座右の銘 Sense of ownership

教頭になると、先輩からのアドバイスは、「とがることがないように心掛けること」であった。以来、チーム学校・地域として、当事者意識を引き出す仕組みづくりや、一緒に結果を導き出したという達成感の共有を基盤にして、「生涯学び続ける子どもたちの育成」を目標に取り組んできた。

教職の日々を振り返ってみると、私を導き、研修や活躍の機会を与えてくれた方々との出会いに恵まれていたと思う。そこで、教職終盤は、よい出会いづくりも課題の一つとして、自己研鑽に励んできた。
しかし、感謝することの方が多かったように思う。



防府市立玉祖小学校 大谷 圭二
初任校 下関市立文洋中学校
座右の銘 継続は力なり

新任の下関市から始まって、美祿郡、山口市、岩国市、防府市、光市で勤めさせていただき、多くの方々との素敵な出会いに恵まれた教職員生活であった。

教職員から、何事も最後まで粘り強く「継続する」ことが重要であると教えてもらった。また、保護者や地域の方々からは、共に生きることの大切さを教わり、ご支援をいただいていた。

後先考えずに目の前の子どもたちと向き合うだけの自分は、教育について熱く語られ、実践される先輩や同僚の

これまでの出会いに感謝し、今後は私にできる恩返しをしていきたいと思う。



宇部市立二俣瀬小学校 上田 俊宏
初任校 都濃郡鹿野町立鹿野小学校
座右の銘 授業は布石の連続

授業の名人である有田和正先生は、温厚なお人柄で、お会いするたびに助言や励ましの言葉とともに多くのことを教えてくださった。その中の一つであり有田実践を象徴する名言である。
布石を打つには、ゴール場面を思い描き、逆算して考える必要がある。現状との違いから、打つ手も見えてくる。

何をどのようにするべきか、校長室で毎日のように考えていた。今振り返ると、解決に向けた布石や最善手を考えていたのだと思う。

拙い一手で迷惑をかけることもあったが、それを乗り越えられたのは、多くの方の支えがあったおかげだと痛感している。心から感謝したいと思う。



宇部市立黒石小学校 小松 茂文
初任校 宇部市立藤山小学校
座右の銘 忘己利他 (もうこりた)

今回のパンデミックで、学校を含め私たちの社会は不可逆的な変化をこうむった。しかし安全を前提に、学校を「学び育ちあう場」として厳に守りたい。そう念じ、原則には頑固に、しかし状況には柔軟にと、対応・決断を繰り返す中で退職を迎えることになった。だからこそ、その多くが二十二世紀

を見るであろう子どもたちを目の前に「自らをいったん脇に置き、まずは他者の利を考える。それが自らの幸せにもつながる」というこの言葉に思いは戻る。教職三十六年間はまさに須臾の間。あるのは感謝の思いのみである。新年度からの人生の新篇章を、実現はほぼ厳しくとも「忘己利他」の思いの下に歩みたい。



山陽小野田市立厚狭小学校 久保 仁
初任校 豊浦郡豊浦町立宇賀小学校
座右の銘 時々の 初心忘るべからず

大学四年の秋、地元の小学校で教育実習を経験した。その時、担当された先生との出会いが私の教師としての礎になった。以来、三十八年間ずっと先生の姿や授業を追いかけ続けたが、到底追いつけないままに定年の日を迎える。ありがたいことに教師生活の歩みの

途上においても、仕事への向き合い方や、酒の飲み方を教えていただく機会を得ることができた。職種が変わったり、単身赴任をしたり、人生のターニングポイントでかけていただく言葉は、その都度心にしみた。今は亡き我が師に、無事退職の日を迎えることを伝えたい。



山陽小野田市立植生小学校 城戸 邦之
初任校 岩国市立川下中学校
座右の銘 花綵

中学校五校、日本人学校二校、小学校一校、そして、最後は小中一貫校と様々な学校に勤務させていただいた。日本人学校では、自分の子どもにも勉強を教え、それを母親(つまり自分の妻)が参観日に授業参観しているという何とも言えない不思議で楽しい体験もさせていただいた。

花も葉も茎も根も編み込んでできた丈夫で美しいロープ、花綵のような学校づくり、職員集団づくりを目指してきました。今、教員生活を振り返ると、わがままな自分の足跡の上に、感謝の文字しか見えない。



美祿市立厚保小学校 藤井 幸司
初任校 下関市立勝山小学校
座右の銘 誠実な生き方を大切に

長いようで短かった三十八年間の教員生活。この間、本当に多くの方々に支えられてきた。子どもたち、保護者、地域の方々、先生方、そして家族……。たくさんの方々の思い出が次から次へと思い出される。特に初任地の勝山小学校での教育課程(社会科)全国大会は私の教員人生を大きく左右するすばらしい

経験となった。自分が目指す授業像に向けて全力投球でがんばった日々が今は懐かしい。校長となってからは、迷ったり、悩んだり、後悔したり…の連続であったが、いつも私を支え続けてくれたのは、子どもたちの笑顔であった。みなさん、本当にありがとうございました。



下関市立文関小学校 板倉 豊
初任校 豊浦郡豊田町立西市小学校
座右の銘 人間万事塞翁が馬

何が起こるか分からない、最悪を想定して対応する、とはこれまで様々な場面で繰り返し聞いてきた。しかし、百年に一度ともいわれる新型コロナウイルス感染症の問題が発生した時期に、校長として指揮を執ることの難しさは想像以上のものがあり、辛い日々の連続だった。加えて、本校

は、二〇二一年が創立百五十周年であり、たくさんの方々の記念事業があった。大きな困難に直面した時にいつも思うことがある。校長は覚悟を決めること。顔を上げ、前に進むのみ。もう一つは、運や巡り合わせ。私は文関小に教諭で七年、校長で三年お世話になった。これが私に与えられた使命だと。



下関市立川中小学校 藤田 淳史
初任校 小野田市立小野田小学校
座右の銘 一生懸命

三十八年間、たくさんの方々の出会いに支えられ、たくさんの方々に導かれながら、走り続けてきた。校長になってからは、その責任の重さに悩み、心が折れそうになったり、孤独を感じたりする毎日、特に、ここ二年間は、果たして自分の判断は正しかったのかと迷うことが多かった。長い間ありがとうございました。

そんなふうには、迷い、悩みながらも、毎日走り続け、今、何とかゴールへたどり着こうとしている。苦勞を共にしてきた先生方、出会ってきた多くの子どもたちや保護者、地域の方々など、常に私を支え、支えてくださった全ての方々に感謝したい。



下関市立安岡小学校
初任校 豊北町立滝部小学校
座右の銘 人事を尽くして 天命を待つ
久保 晴宣

六つの市町の九つの小学校に勤務し行政職も経験させて頂いた三十六年間である。それぞれの職場で素晴らしい子どもたちや教職員の皆様と出会い、教師として、また人として成長させて頂いた。学校現場に戻った四十代の頃、「私は子どもたちに生かされている」と感じ、職員室で豪語し、当時の教頭



下関市立吉田小学校
初任校 下関市立長府小学校
座右の銘 因果応報
平松 繁泰

何かに取り組んでも長続きがしない。習い事など、ものなるまで継続したためがない。「飽きやすの惚れやす」と子どもの頃によく言われていた。今でもそうなのだと言われている。それでも、教職という仕事だけは、なんとか最後まで勤め上げることができた。ものになったのかと言われると



下関市立山の田小学校
初任校 徳山市立周陽小学校
座右の銘 教育は人なり
竹中 謙二

初任校は、大規模校で四年生の担任から教職がスタートした。校長先生をはじめとして、たくさんの先生方に指導を頂いた。また、当時は独身で放課後や土日に子どもたちと一緒に遊ぶことや、半日勤務の土曜日に、同僚の先生方と昼を食べて様々なことを教えて頂いた



下関市立室津小学校
初任校 徳山市立岐山小学校
座右の銘 幸せは自分の心が決める
中嶋 洋司

ある学校で素晴らしい校長先生に出会うことができた。その校長先生は、わずか五年で、荒れていた大規模校をたて直された。いや、たて直すどころか市内でも誇れるほどの素晴らしい学校にされたのである。その校長先生は常に子どもたちのことを考え、教職員に熱く自分が考える教育について語ら



萩市立福栄小学校
初任校 宇部市立常盤中学校
座右の銘 人との出会いは「室」
井原 良

山口県での初任校前、愛知県豊田市が教員生活のスタートである。当時の校長の言葉を今でも鮮明に覚えている。それは新採三年目の正月に校長宅へ呼ばれたときのこと、校長から「あなたのおふるさは山口県萩市、明治維新を成し遂げた長州である。来年度、山口県採用試験を受け、戻りなさい。そして



長門市立深川小学校
初任校 長門市立深川小学校
座右の銘 初心忘る可
大塚 準

深川小には昭和の終わりに新任教員として着任して平成を迎え、平成の終わりに再び校長として着任して令和を迎えた。教員人生のスタートとゴールを経験した思い深い学校となった。初任当時のことは、今でも鮮明に覚えていて。教員としての考え方や方向性は、やはり初任の学校にある。校長

◆ オンラインによる大会
 研究部 坂本 哲彦
 (山口市立良城小学校)

昨年度から新たな研究主題として「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を、副主題として「高い志をもって他者と協働し、新たな価値を生み出す子どもを育てる開かれた学校経営の展開」を設定し、二次次の研究を行った。

十月二十九日に下関市において開催予定であった「山口県小学校長会秋季教育研究大会下関大会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、誌面及びオンラインによる開催となった。これまで各支部において鋭意積み重ねてきた取組の成果について、例年同様「大会要項」にまとめ配布し、オンラインの大会では、十の分科会が短時間で、また、長門、美祢、防府の三支部が、全国又は中国大会で担当した内容を詳しく発表した。

要項に掲載された各支部の研究等を今後の取組に役立てていただきたい。

なお、全国大会石川大会も誌面開催となり長門支部の研究が、また中国大会広島大会では、長門、美祢、防府支部の研究が各要項にて発表された。

また、本年度の「研究課題検討委員会」では、令和五年度の本県の研究主題、副主題、趣旨、各分科会の研究課題、趣旨を作成することができた。

◆ 「教育の目的性」を明らかに
 対策部 西本 隆
 (下松市立下松小学校)

対策部は、各支部の校長会や教育関係諸団体からの貴重な意見を参考に、提言書を作成し、「山口県教育を充実させる」という視点で県教育委員会への提言を行っている。

本年度から小・中学校で提言項目を統一し「教職員の確保と配置の工夫」、「教職員の資質能力の向上に向けた施策の推進」、「教育活動の質の向上に向けた支援」の三項目を中心とした提言と県教育委員会からの提言に対する回答を交えて意見交換が行われた。

新型コロナウイルス感染症対策を展開しながら教育活動の充実に努めている学校の教育活動の状況を説明するとともに「新規採用教員の状況を踏まえた教員採用の在り方や若手教員の人材育成」、「ICT教育への支援体制」、「オンライン会議の活用」等を中心に学校を取り巻く諸課題について有意義な協議が行われた。また、退職年齢の引き上げに伴うこれからの見直しについて尋ねたところ、国家公務員制度を参考に地方公務員の制度設計について情報を集めながら研究していきたいと説明があった。

県教育委員会からは「教育の目的性」を明らかにしながら教育活動の充実に向けて校長会等の場で双方向の協議を行いたいとの言葉をいただいた。

各 専 門 部 か ら の 報 告

◆ つなぐりを深く
 広報部 下瀬 昌巳
 (山陽小野田市立高千帆小学校)

広報部は、山口県小学校長会の活動方針に基づいた取組の周知を図り、各支部、各校の取組をまとめ、会員が学校経営をより確か豊かにしていくための参考となる情報伝達に努めてきた。具体的には、広報誌「会報」、機関紙「歩み」の編集にかかわる二つの委員会を組織し、委員長を中心に全部員が協力して主体的に取り組むことで、効率的な編集を行い、その発行に向けて取り組んだ。

その他に全連小関係では、機関紙「小学校時報」や教育研究シリーズ第六十集への執筆依頼、全国調査への協力、令和四・五年度版「全国特色ある研究校便覧」への学校推薦、ホームページへの情報提供を行った。

これらの活動は、急速に変化する社会の中で、日々知恵を絞り研鑽を積み重ねられている各支部、各校の取組をまとめ、各校長に執筆いただくことにより実現できている。快く協力いただいた皆様に對して、改めて深く感謝するとともに、お礼を申し上げます。

コロナ禍において、感染症対策に大きく影響を受けながらも、様々な取組に果敢に挑戦されている方々に、広報部の活動がつながりを深め、勇気を与えるものとなるよう鋭意努力を続けていきたい。

◆ 今年度の調査活動を通して
 調査部 國友 孝
 (下関市立吉見小学校)

今年度の調査部の活動は、コロナ禍において、部会の開催回数を抑えオンライン会議に切り替えて実施した。

調査部では、「調査処理委員会」と「経営管理委員会」の二つの委員会を設置し、継続的な教育調査並びに当面の課題究明の調査研究を行った。

まず、市町教育費調査では、昨年度に比べ、教育予算額の一割程度の減少や市町間格差拡大の状況にあることが明らかとなった。

次に、次年度の学級編成及び教職員配置調査から、今後数年間にわたり児童数は減少傾向にあり、若手教員は増加傾向にあることが確認できた。

また、通常学級における配慮を要する児童数が千人を超える現場の状況は、厳しさを増すことが想定される。

さらに、校長として学校経営上重要と考える課題について、「学校における安全対策と危機管理（コロナ対応を含む）」と回答した校長の割合は、全体の六割以上に達した。

以上の調査結果から、各学校では、コロナ禍における学校経営の充実、組織力の向上並びに喫緊の課題解決に向けて、全力で取り組んでいることが明らかとなった。今後においては、より一層のリーダーシップの発揮と明確な経営ビジョンの策定が望まれる。

支 部 情 報

大 島 支 部

プラス思考で
思い切った取組を

「輪になれ 輪になれ 鍵になれ 鍵になれ 大きな輪になれ 鍵になれ・・・」と始まる東和中学校の校歌。郷土の雄星野哲郎さんの作詞である。大島支部九名の校長のうち、三名がこの中学校の卒業だ。在校時三百名近くであったが、令和三年三月末をもって閉校となった。令和五年三月末には二小学校の統合も決まっている。大島支部は、他地区よりも速いスピードで少子化が進んでおり、年々規模が小さくなってきている。



しかし、大島支部にしかない思い切った取組もある。一つ目が、拡大集合学習（KS学習）である。複式学級を有する学校の多い本支部で

は、旧中学校区の小学校をひとまとまりにして、高学年で年十日、中学年で三日、低学年で一日をめぐりにKS学習を行っている。コロナ禍のため、この二年間日数は減らしているが、子どもたちのつながりの場、学習意欲向上の場、そして教職員の研修の場として有効な取組となっている。

二つ目は、町内施設、イベントが多彩であることである。陸上競技場や屋内プール、音楽ホールを使って開催できる小学校の陸上記録会や水泳記録会や音楽祭。さらに、カヌー教室を始めとする各種スポーツ教室、駅伝大会、サッカー大会、水に親しむ体験プログラム、公民館や図書館でのイベントなど学校以外でもスポーツや芸術などに取組む機会が多くある。これらは、子どもたちを地域全体で育てていくこうとする取組であり、児童生徒の健全育成に大きく寄与していると考えられる。

少子化が進むととかくマイナスのことばかり考えやすいが、小回りがきき、思い切った取組ができるというメリットもある。まだまだコロナの影響は続くと考えられるが、大島支部ならではのチームワークにより、「ふるさとに誇りがもてる人づくり・地域づくり」を進めていきたいと考えている。

（周防大島町立明新小学校長 中山 一弘）

支 部 情 報

支 部 情 報

防 府 支 部

「教育のまち 日本一」
を目指して

防府市では、今年度から二〇二五年度までの五年間を「輝き！ほうふプラン」第五次防府市総合計画期間と定めている。学校教育は、重点プロジェクトの一つ「未来を拓く子ども育成」を担い、「教育のまち日本一」を目指している。「教育のまち 日本一を目指す」とは、「歴史と文化に恵まれ、まち全体が教育を大切に行っている教育的風土を土台とし、本市に暮らす一人一人の夢の実現を果たすこと」を意味している。

防府市小学校長会は、小中一貫校二校を含む計十七校の校長で組織されている。研修は、防府市教育委員会主催の年間五回の小中合同研修会と校長会主催の毎月一回の定例校長研修会を実施している。

小中合同研修会では、今年度、これまでの災害に基づいた防災教育の在り方、一人一台端末のICT環境を活かした授業改善、地域に開かれた教育課程、コミュニティ・スクールを目指すもの、学力向上など、校長として求め

られるリーダーシップを発揮するための資質向上研修が行われている。

定例校長研修会では、研究部を中心に、令和三年度山口県小学校長会秋季教育研究大会等での発表に向け、「家庭・地域社会等との連携・協働と学校間連携の推進」全教職員が参画する持続可能な仕組みを構築する校長の役割」を研究テーマとし研究に取り組んだ。この結果、「校長会の共同研究を通じた情報共有」「持続可能な仕組みづくりに着目した地域連携教育の見直し」「教職員の学校運営参画への意識の高まり」「小中連携の取組の進展」という成果が得られた。また、昨年度に引き続き、コロナ禍における学校運営や学校行事の在り方について情報交換を行い、共通理解を図りながら、柔軟な取組を進めることができています。

今年度後半からは、「学校の教育力向上を図る研究・研修の推進」について、研究を開始した。今後、十七校の校長が連携・協働し、子どもたちの夢の実現につながる学校教育を推進することができるよう、研究を深めていきたい。

（防府市立西浦小学校長 岡田 陽子）





令和になり、世界は、新型コロナウイルス感染症の猛威にさらされ、地球規模のパンデミックが

起き、日本もその中で、対応に苦慮し続けている。学校現場も、子どもたちの学びの保障と感染拡大防止対策の両立に悩まされてきた。

私は、日本の感染者の状況を報道やインターネット等で情報収集する際、常に海外の状況も気になった。私事ではあるが、二十年前、メキシコ合衆国の在外教育施設に、三年間派遣されたこと、現在、長女がヨーロッパで生活していることもあり、メキシコやアメリカ、ヨーロッパなどの他国で多くの死者が発生している情報に触れるたび、心配になり、心が痛んだ。

今回の出来事で、多くの人々は、まさに世界はつながっており、日本は世界の中の一員として、自国のみの利益を優先する考え方は通用しないという実感が高まったのではないかと思う。

山口県では、目指す「やまぐちっ子」の「すがた」の一つに『郷土に誇りと愛着をもち、グローバルな視点で社会に参画する人』を掲げている。ふるさとを愛し、ふるさとの発展に寄与することと世界を知り、豊かな国際感覚を身に付けることは、密接なつながりがあるということである。

各学校では、コミュニケーション・スキルを核とした地域連携教育の充実に向け、地域の特色を生かした取組を行っ

ている。コロナ禍の影響で、地域の方々に招いての授業や子どもたちが地域に向いて学ぶ機会は大きく制約を受けてきた。しかし、今後はアフターコロナの時代に移行し、もう一度、地域連携教育のよりよい在り方を見直し、社会に開かれた教育課程を再構築するチャンスがやってくると思う。

地域や伝統、文化に関する学習を年間計画に位置付けるだけでなく、国際理解教育の三つの視点「異文化と共生できる資質や能力」「自己の確立」「コミュニケーションシジョン能力」を踏まえ、世界を舞台に活躍している人材と交流できる機会を設けたり、インターネットを活用し、言語や文化の異なる海外の人々との交流を図ったりといった工夫も必要だと思つた。

幕末から明治にかけて、山口県の先人たちは、グローバルな視点から、海外の進んだ文化を学び、近代国家の基盤づくりや我が国の発展に力を尽くした。未来を担う子どもたちにも、高い志とふるさとや日本に誇りと愛着をもち、併せて豊かな国際感覚を身に付けた大人に成長して欲しいと願う。

ふるさとを愛し、豊かな国際感覚を！
下関市立小月小学校長 中村 知 史

日 長 耳 飛

天命に従い 人事を尽くす
柳井市立大島小学校長 叶 山 雅 隆



江戸時代末期、幕府が弱体化していたのは、ご承知のとおり。「天皇を中心とする政治にもどさなくてはいけない。」と、尊皇論を主張。それに対して「武士が規律を正せば日本は良くなる。」と、返答する。「そうじゃない、武士の身分を否定しないとだめだ。」と、返す。

「では、公武合体(朝廷と武士が協力する)では」と、返答あり。「そんな甘いことではだめだ。」と、両者の手紙のやり取りが行われ、後者は、「志あるすべての者が国のために立ち上がる」という考えにつながっていった。

前者は、僧月性。現在勤務する本校校区内にある遠崎の妙円寺で生まれた。向学心があつた月性は、十四歳で寺を出

て、福岡県の塾で五年間学んだ。その後、佐賀県で仏典を学び、長崎県で見聞を広め、外国船を目の当たりにして、海防論を唱えるきっかけとなった。

後者は、吉田松陰先生。月性より十三歳年下であり、前述のようなやり取りを通じて、月性を師と仰ぐようになり、彼の考えを学び広めるよう言い残

した。二人に共通する言葉として思い浮かんだのが、題字となる言葉である。天命として与えられた赴任先では、「地を知り、人を知り、誰かの後押しを行い、誠実に最善を尽くす。」ことを校長として、日々取り組んできた。そして、年度の締め括りとなる卒業式では、自身で決意したことを実践している。

卒業式は、言うまでもなく卒業生が主役の式である。六年間の様々な先生方の指導により成長したことや地域や他学年とのふれあい活動等を振り返り、学校では最も厳粛な式である。成長した子どもたち一人一人の姿を思い浮かべながら卒業証書へ自らが筆を取り清書する。式辞は文面をパソコンで考え何度も推敲し、奉書紙に浄書する。印刷機にお願いすれば二・三分で完成できるが、取えて二時間弱かけて仕上げた式辞に目を向ける。式当日に、卒業生全員が出席できることを願いながら・・・。

当日は、ステージから卒業生や保護者、来賓に視線を送り、読み上げる式辞は、言葉一つ一つにも重みが生じてくるように感じる。担任の熱心な指導により、物事に誠実に取り組んだ子どもたちの様子も紹介した。式を終えた職員室で、担任から感謝の言葉を頂いた。校長以外、あまり目にするものない式辞ではあるが、今年も自身で決意したことを肅々と嗜みながら行いたい。人事で悩む先生方へ、「天命に従い人事を尽くす」を贈り、活躍を祈念する。

◆スクールガードリーダーとして、萩市の多くの学校の避難訓練などで警備上のポイントや不審者への対処方法などに関するアドバイスをされている大田忠男さん。子どもたちの安全への思いや、私たちに伝えたいことについて、お話を伺いました。

※スクールガードリーダーになられたきっかけと大切にしていること

最初は何をすれば良いのかわからないまま、萩市教育委員会からの依頼を受けました。他県での子どもを巻き込む事件や、東日本大震災の津波による被害をはじめ、日本各地で災害が多発したこともあり、自分にできることを一つでもやっていたいこうと思い、引き受けることにしました。昨今は、豪雨による災害など自然災害が毎年起こっています。気象情報等、事前に災害を予測できるものは活用し、私たち大人が守ってあげることが大切です。また、火災や交通事故、不審者による被害に遭うかもしれません。子どもたちに「自分の身は自分で守る」力を付けるためには、学校での訓練に加え、家庭での指導も大切だと思います。

※避難訓練などの指導を通して、感じたことや学校の危機管理について感じていること

訓練といえども、声が出ない、どうして良いのかわからない、行動しようとしても固まってしまふ、というよう

なことがあります。訓練の回数を重ねることによって本当に遭遇した時に動けるようになります。年に一回ではなく何回でも行うことは大切なことだと思います。

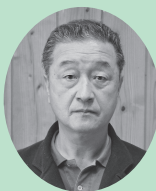
学校の危機管理については、それぞれの学校で立地等が異なります。各校違った部分はありますが、どの学校もよく取り組まれていると思います。しかし、以前、消防ポンプのある部屋に灯油を保管していたり、除草のための鎌が校舎周りに置いてあったりして注意したことがありました。気付かないことや、想像しなかったことから事故は起こること

探訪シリーズ

この人 この歩み
子どもたちに
安全と安心を

萩市スクールガードリーダー

大田 忠 男 さん



があります。先生方が危険を予測できる感覚を身に付けることも大切です。また、管理職の先生と、その他の教職員の先生方の意識に温度差があるように感じます。子どもたちの命や安全を守るためにも、管理職任せにならず、全教職員が共通意識をもち、同じ行動をとることができるようにする必要が

あると思います。

※これからの学校に求めること

スクールガードリーダーは、平成十七年度に文部科学省の要請でスタートしました。現在、萩市は二名で担当しています。スクールガードや見守り隊は各校に組織されていますが、その中にリーダー的な存在を作っていたことで組織力が向上し、子どもたちがより安全に生活できると思います。校長先生方には、PTAや地域の人材から適任者を見出し、校区のスクールガードリーダーを育成していただければありがたいです。

各地で少子高齢化が進んでおり、スクールガードも高齢化しています。現任者が元気なうちに後継者を育て、先を見据えて子どもの安全を守っていくことが大切です。学校運営協議会や地域学校協働本部の協力を得ながら、学校を核とした、安全教育を進めていただくことにより、安全で安心な地域づくりにもつながってくると思います。

◆現役でお仕事をされながら、スクールガードリーダーとして多くの学校を訪問されるバイタリティーと、子どもたちの安全だけでではなく、地域全体の安全も考えておられる広い視野と情熱に感動しました。

(萩市立川上小学校長 豊澤 守)

編集後記

当たり前の日常が奪われて、はや二年が過ぎ去ろうとしている。「新しい生活様式」は「当たり前の生活様式」となりつつあり、社会全体はもろろん、学校でも、これまで築き上げてきた多くの取組の見直しを余儀なくされた。しかしながら、子どもたちの安心・安全な生活を最優先としながらも、教育活動を止めることなく、大切なことは工夫をし、実施してきた。その際に確固たる礎となったこと、それはやはり「人と人とのつながり」である。学校間での情報交換や共有、教育委員会をはじめとする関係諸機関との連携、そして何よりも保護者や地域住民の理解や協力・・・本県が推進する「地域連携教育」の強みを皆が感じることができたのではないかと思っている。

本会報の意義も同様である。今年度も、皆様方より大きなお力添えをいただき、無事、年二回の会報を発行することができた。各支部や様々な学校における特色ある取組の紹介、道を突き進み、究められた先達から賜った熱いメッセージ、本県教育に尽力された先輩方からいただいた経験に基づく至言等々、言葉は、私たちに勇気づけ、そしてつなぐ役割を果たしてくれる。

玉稿を賜った皆様方に感謝の意を表し、編集後記とさせていただきます。